

フィールド実習の映像コンテンツ作成について

企画情報室 中村はる奈

1. はじめに

2020年1月から日本各地で新型コロナウイルスの感染者が相次いで、2020年度の京都大学の授業は5月からオンラインで開講となった。教職員は交代で在宅ワークを実施し、通常勤務する場合も手指消毒やマスク着用を徹底するなど、ウイルスの感染拡大防止対策を講じた。

日本全国で新しい生活様式が叫ばれていた中、大学の授業、特に学生実習の実施についても試行錯誤が続いた。2020年度の実習は、ほとんどが中止や延期、オンライン開催を余儀なくされ、対面で開催できたとしても参加人数を数人に限定せざるを得ない状況であった。大学生は学年が上がっていくと別の科目を選択せねばならず、また、就職活動や大学院入試などに時間を割く必要が出てきて、学生実習に参加できるタイミングは限られている。学生実習への参加は、大学生にとって貴重な経験であると強く感じ、何かできることはないか検討し始めた。

2. 映像作成の経緯

コロナ下の実習について最初に思い付いたことは、森林や海岸などフィールドの現場から教員による解説映像のライブ配信であった(図1)。タブレット端末とポケットWi-Fi、無線マイクを駆使すれば、その場にはいない学生からの質問などに対応しながら実施できるのではないかと構想した。しかし、これまでの経験から、ライブ配信は当日の天気やWi-Fiの通信状況により失敗する可能性が高く、加えて、配信スタッフの確保、配信に失敗したときの代替映像の準備など、課題が山積みだった。

一方映像のオンデマンド配信は、自分の好きな時間に映像を見ることができ、利便性が高い。そこで、まずは実習映像の配信から始めることにした(図2, 3)。撮影と映像編集は、授業動画を一般に公開している京都大学オープンコースウェア(OCW)のスタッフに依頼し、品質が高く臨場感のある映像を作成し、一般公開することをめざした。映像を見るだけと、現地で五感を使って体験することは、全く違うが、実習に参加できなかった大学生に少しでもその雰囲気を感じてもらふこと、さらに、森林や生きものに興味のある高校生や学び直しを希望する社会人など、多くの方にも本映像を届けられれば京都大学のフィールドワークに興味を持つきっかけとなるのではないかと考えた。

なお、これまで海外から大学生が来日して、対面で実習をしていた「ワイルド&ワイズ共学教育受入れプログラム事業」をオンラインで実施することになり、一部の映像に英語テロ



図1. 現場からライブ配信のイメージ



図2. 北白川試験地でスギ解説の撮影



図3. 芦生研究林でトロッコ解説を撮影

プを入れ、受講生であるブラジルの大学生へ配信した。実習終了後、京都大学へ留学を希望する外国人学生の獲得につながることを期待して、それらの映像を一般公開した。

3. 業務の流れ

今回は、映像の撮影、構成、編集、校正、公開まで、すべて学内教職員が担当した。業務分担は、図4を参照いただきたい。

映像制作過程の反省点として、工程ごとにどれほど労力と時間がかかるか見当が付かなかったこと、映像のどの部分が重要なのか判断できず映像構成で迷走したこと、また実習担当の教員が繁忙期で映像の確認に時間がかかったことの3点をあげておきたい。



図4. 映像の制作過程と業務分担 ※テロップの英文校正は、国際広報室および北部国際室が担当

4. 映像の再生回数

2022年6月15日時点、映像の再生回数(表1)は、それぞれ150~2150回程度と再生回数に差がでた。

表1. 実習映像の再生回数リスト

施設名	撮影日	映像公開日	キーワード	映像の長さ	再生回数 ※1
芦生研究林 3本	2021年7月 19~21日	2022年5月 10日	研究林概要講義	44分	1199回
			野外実習	43分	1773回
			猟師の講義	1時間18分	2151回
北白川試験地 1本	2021年9月 17日	2022年2月 15日	野外実習	26分	671回
舞鶴水産実験 所 6本 ※2	2020年12月 ~2021年9 月	2022年5月 9日	乗船・生物観察	9分	597回
			実験室	14分	772回
			シュノーケリング	30分	503回
			乗船・底引き網の解説	30分	153回
			標本実習	34分	272回
			耳石解析・魚類の胃内容物の観察	36分	260回
瀬戸臨海実験 所 3本	2021年8月 23~24日	2022年2月 15日	乗船・生物観察	36分	729回
			干潟の生物観察	25分	1114回
			磯の生物観察	20分	770回
白浜水族館 1本	2021年8月 22日	2022年2月 15日	解説ツアー	30分	997回

※1 2022年6月15日時点の再生回数

※2 実験所研究員が撮影した映像をOCWが編集

人気がでると思っていた映像ではなく別映像の再生回数が伸びた事例があり、映像のサムネイルを見て視聴する人が多いことが予想された(図 5)。また当初、映像は短い方が良いと考えていたが、映像の長さは再生回数に関係ないことが示唆された。さらに、シュノーケリング講習など、毎年の実習前に予習教材として利用される映像については、公開後の数カ月では比較できないため、数年単位で再生回数を記録することが必要である。



図 5. 実習映像のサムネイル (京都大学オープンコースウェア提供)

一例として、芦生研究林「野外実習」(43分)の映像について、YouTube アナリティクスで示された年齢別・男女別の視聴回数の割合を記す(図 6, 7)。年齢別では 45 歳以上が 3/4 を占めており、若年層の割合が少ないこと、また男性の閲覧者が多いことが分かった。

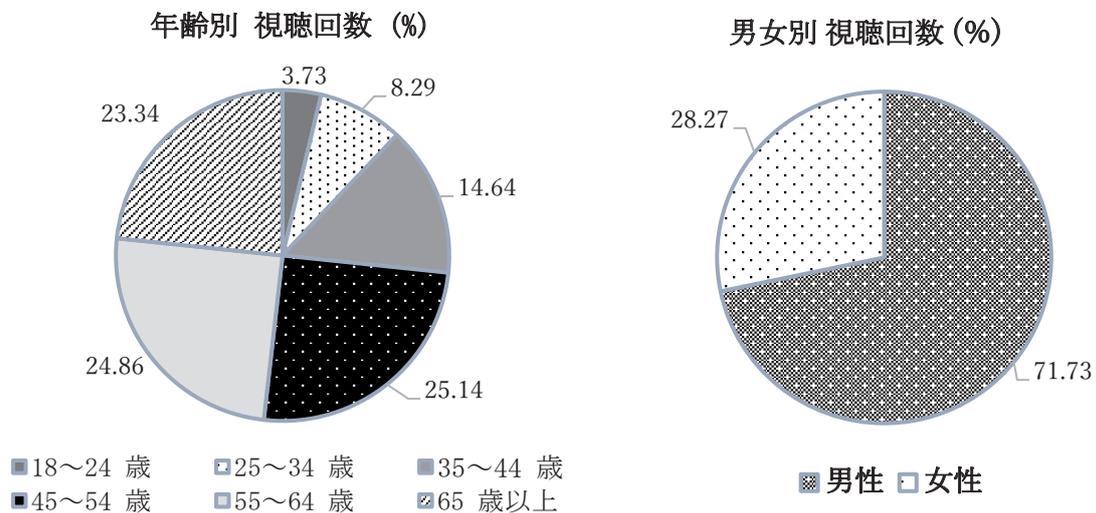


図 6, 7. 芦生研究林「野外実習」の年齢別・男女別の再生回数(%)

時系列の視聴回数では、公開した直後が 1000 回程度、その後は新聞報道や SNS やメルマガでの広報活動を展開したものの、視聴回数は微増であった(図 8)。

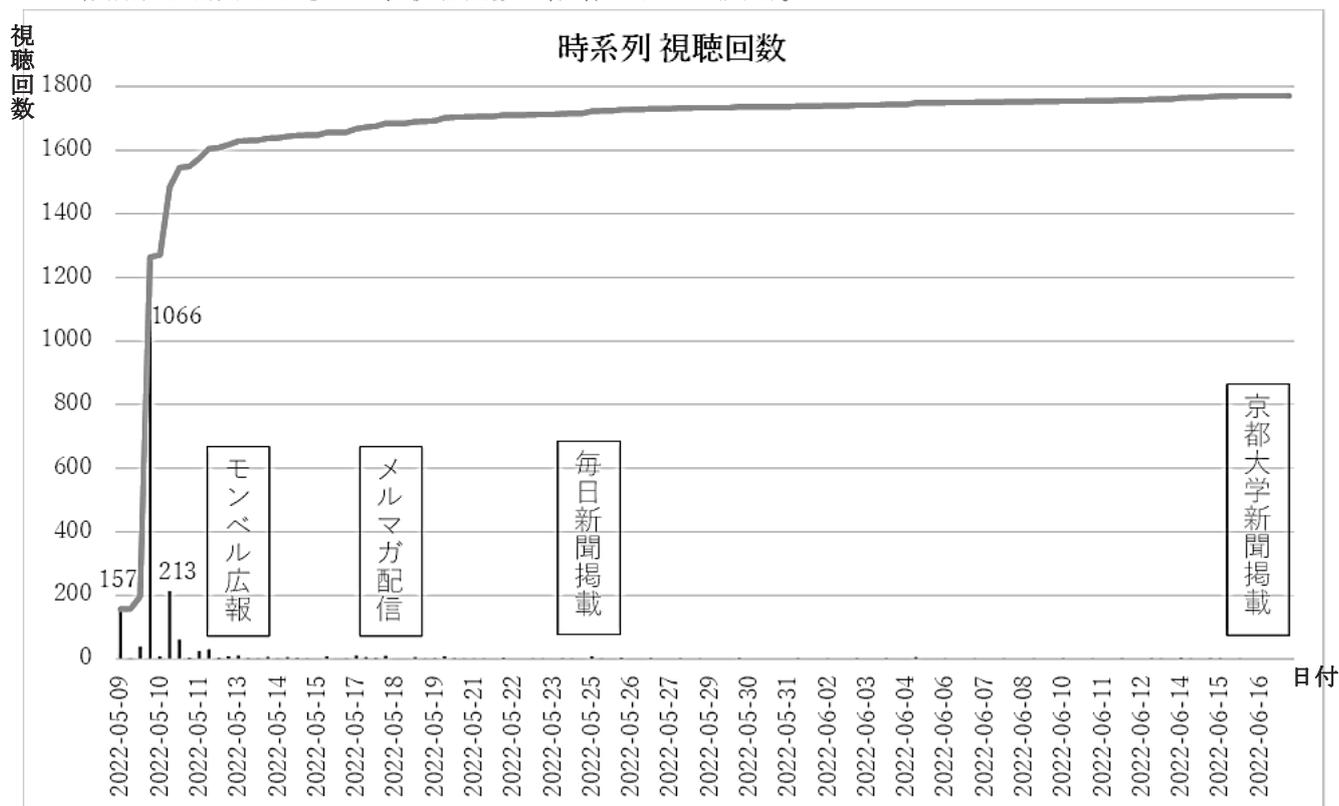


図 8. 芦生研究林「野外実習」の時系列 視聴回数

5. 広報活動

実習の映像を京都大学 OCW ページ(YouTube)で公開した後、多くの方に映像を見ていただくため、以下のとおり積極的な広報活動を行った。

- ・ウェブページ公開、メルマガ配信、Twitter 投稿
- ・京大広報(学内向け情報誌)および教職員ポータル掲示板、学生 KULASIS 掲示板にお知らせを掲載
- ・京都大学広報課より、大学記者室へ 2 回に分けてプレスリリース(資料配布)した結果、読売新聞(2022/04/05)、毎日新聞(05/25)、京都大学新聞(06/16)に記事の掲載あり
- ・包括連携協定を締結している株式会社モンベルに広報の協力を依頼し、モンベルの Facebook(図 9)および Twitter で投稿(05/13)いただいた
- ・京大の刊行物を請け負っている出版社に情報提供など



図 9. モンベルの Facebook 投稿画面

SNS やメルマガ配信、新聞報道などで多くの方に興味を持っていただけたようだが、芦生研究林や北白川試験地などでの京都大学 OCW の YouTube チャンネル(2022 年 8 月 25 日現在、登録者数 10 万人)から映像を閲覧している方が圧倒的に多いと感じた。動画をウェブ上にアップロードしただけでは再生回数が伸びず、アカウントに対する登録者(フォロワー)を持っていることが重要と示唆された。

また、最近の若年層は Instagram や TikTok といったスマホアプリで短い動画を閲覧する方が多いため、新たな視聴者を獲得するためにそのようなアプリケーションの利用を検討することも、今後の課題としたい。

6. おわりに

一連の業務を通して、映像の制作はどのカットが重要なのか自分では判断できず、本当に大変な作業だと感じた。映像の公開まで、これほど時間がかかるとは思っておらず、途中でこころ折れかけたが、多くの方にご協力いただき、何とか持ち直して公開までたどりつくことができ、本当に嬉しい限りである。

研究林などでのフィールド実習の映像は、他大学でも作成されているようだが、閲覧に申請が必要であったり、履修学生だけに限定して映像を公開されたりするケースが多い。今回、京都大学 OCW で映像を広く一般公開できたことは大変意義深く、フィールドワークに興味をもつ多くの方へ学びの場を提供し、貴重な教育コンテンツとして利活用いただけることを期待している。

また本映像の撮影でフィールド研の遠隔施設に出張した際、様々な教育研究活動に携わる技術職員の多様な業務を目の当たりにして、感動を覚えた。重機や船舶の操縦、フィールドでの解説、実習生のフォロー、試料の採取など教育研究活動の支援、SNS やウェブページでの情報発信など業務内容が多岐にわたり、まさにマルチタスクを体現していた。このような貴重な人材・物品・建物・予算といった基盤があつてこそ、フィールド教育のための遠隔施設の運営が成り立つのだとあらためて知る機会となり、自身にとっても貴重な経験となった。

(参考資料)

- ・デジタル森林教育コンテンツ. コンテンツ. オンライン,
(<https://sites.google.com/view/digitalforesteducation/>). 2022/09/21
- ・京都大学フィールド研. フィールド実習映像一覧. オンライン,
(<https://fserc.kyoto-u.ac.jp/wp/fieldcourse>). 2022/05/10
- ・京都大学オープンコースウェア(OCW). フィールド科学教育研究センター. オンライン,
(<https://ocw.kyoto-u.ac.jp/?s=&category=&faculty=fserc>). 2022/09/30